平成 24 年度　事務事業事後評価調書（平成　23　年度事業）

整理番号	8	ー	4

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	保育所地域活動事業					
評価者	担当課名		保育所	担当係名		児童保育係
	管理職	職名	所長	作成者	職名	係長
		氏名	豊田　通敏		氏名	斉藤　智美
事業の概要	保育環境は、異世代との交流機会が極めて少ない状況にあるが、児童健全育成の観点からも、世代交流が行える環境づくりが必要であり、その効果も大きい。また、育児に関する情報提供や交流を持つことにより、地域一体となった保育環境を整えることができる。					

全体計画（平成 20 年度～ 24 年度）		
事業費	国・道支出	1,050 千円
	地方債	千円
	その他	千円
	一般財源	1,700 千円
	事業費計	2,750 千円

実施方法	■	直営		民間委託		その他（　　）
第５期総合計画（前期）	■	登載事業		非登載事業	優先度	B

事業の位置付け	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～
	基本施策	8	子育ち・子育ての充実
	単位施策	2	「子育て」支援の強化
	事務事業の種類	■	自治事務　　法定受託事務
	その他計画・根拠等		次世代育成支援行動計画

事業費	実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	国・道支出金	300 千円	300 千円	380 千円	275 千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額（一般財源）	155 千円	232 千円	142 千円	256 千円	550 千円
	合計	455 千円	532 千円	522 千円	531 千円	550 千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	入所児・保護者・高齢者・子育て中の親	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）		
【抱える課題やニーズは】	保育所は他の世代と接する機会や、町民が保育の様子を見る機会がほとんどない。	年間総参加者数　600人		
		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	交流機会と参加者の確保。保育内容が見られる環境づくり。	① 参加者数	目標年度	平成23年度
			目標値	600 人
			実績値	1,820 人
			達成度	303.3 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的	他の世代との交流など事業を通して、特に年長児の自覚と自信や意欲を育てるとともに、町民に保育活動等を知る機会を提供する。	②	目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%

内容（どのような手段で何を行ったか）	
①世代間交流	長寿クラブの方々と誕生会での遊戯披露、生活発表会等での相互訪問をおこなった。また小学生、中学生、高校生とはお祭り集会、職場体験、クリスマス等で交流を深めることができた。
②地域子育て家庭への育児講座	入所児の保護者や地域の子育て中の方々などに、様々な視点で入所児の様子を見学してもらい、交流や意見交換の機会をつくった。また、歯科衛生士を講師とした育児講座を開催し子育て家庭への情報提供をおこなった。

3　事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□ 義務的なもの □ 全部 □ 一部	世代間交流は児童の育成に大きな役割を持つとともに、特に高齢の方々にも喜ばれている。また、保護者や地域を巻き込んだ子育て支援としても効果がある。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 ■ 達成 □ ほぼ達成 □ 下回る	世代間交流においては、長寿クラブ員などからは、こうした交流が非常に喜ばれ、また、入所児にとっても交流そのものや保育所外での活動は良い経験となる。育児講座においては、家族や地域の方々に保育所の役割の理解を深めてもらい、地域との関わりを深めてもらうことができる。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 ■ 事業費抑制 □ 人員削減 □ 時間短縮・作業軽減 □ その他	教材等については、できるだけ他の事業と共用が図れるよう工夫し、事業費を抑えている。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □ 受益者負担がある □ 受益者負担がない □ 受益が一部に偏る ■ その他	長寿クラブ員や施設利用者、あるいは保護者など、事業ごとに対象範囲を明確にすることにより公平性を保つ。

4　総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
世代間交流として、高齢者との交流は、子どもたちの心を育てることに大きな役割を持ち、また保護者や子育て中の方々には育児講座等をとおして情報提供や保育所への理解を深めてもらう機会を多く持った。今後も計画どおり事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持		
今後も内容の検討、充実を図りながら、、世代間交流を進め、保護者、子育て家庭に向けては情報提供・育児講座等地域の子育て力向上につながるような支援を展開していく。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5　その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）